

DX 今物語

13

2022年、早くも4月 いかない、どうすればよい
となった。事業計画で「D か」などのご相談も数多く
X」を掲げる企業が多い一 もらう。そこで今回は当社
方、「事業計画に掲げている でのDX推進事例を導入ま
るが具体的な推進方法がわ での裏側も含めて紹介す
からない」「DXがうまく る。



◇つぎ・じゅん 20年以上にわた
り公共・企業の情報インフラ、研究シ
ステム（高感度地震観測網）、大規模
ウェブサイト企画・構築・運用に携わ
る。当社人事や社内DXの推進（S/
4HANA Cloud 導入責任者）
業務を経て、現職。

NTTアドバンステクノロジ
Value Co-creation 事業本部
DXイノベーションビジネスユニット

ビジネス ユニット長 都筑 純

DX推進の最初の一步は
ペーパーレス化であった。
15年頃、当社はIT企業で
ありながらオフィスに紙資
料があふれていた。袖机で
個人資料、さらに書棚で組
織管理の資料を保管してい
た。契約書類は印刷・押印
が必須。会議時は社内外間
わらず参加者分資料を印刷、
お客様訪問時も紙資料を持
参していた。1人あたりの
印刷が1日100枚を超え
ることもあり、繁忙期には
複合機に行列のできるこ
もあった。

ペーパーレス化の最初の
取り組みは「紙資料の徹底
排除」。個人や組織で管理
していた資料の電子化、並
行して袖机全面廃止、書棚
の大幅削減などを実施し
た。当初は今までの紙文化
から大幅な業務見直しを強
いられて社内で反発の声が

実現不可能だと思った「ペーパーレス」

多く、私自身も「紙資料ゼ
ロ化は無理だろう」と感じ
ていた。会議で配布された
資料へメモを書き込んでい
たためだ。

ところが会社は現場の反
発の声に臆することなく、
期限とノルマを設け定期的
な紙削減報告の義務化を徹
底していった。並行して、
社内業務PCのシンクライ
アント化、全社共通ファイ
ルサーバ整備、会議室や社
外からリモートで社内業務
環境へアクセスする仕組
み、押印・署名の電子化な
ど、紙なしでも業務遂行で
きる環境を急速に整備する
ことで、徐々に印刷が不要
となっていった。

現在では信じがたいが月
の印刷が0枚という組織も
増え、また慣れは怖いもの
で「できる限りの資料を印刷
したくない」と思うまでに

なった。

ペーパーレス化成功の要
因は「全社で期限を決め徹
底した紙排除を実施」「紙
資料がなくても業務を遂行
できる環境の整備」を両輪
で推し進めたことだ。この
ような改革は今までの業務
そのものを見直すため、少
なからず現場の反発や痛み
を伴う。そんな時にも経営
層を中心に「業務・環境を
変える」という強い覚悟で
臨んだことで、今ではペー
パーレスが当たり前前の業務
環境となり、業務効率化だ
けでなく、「カーボンニュ
ートラル」にも貢献する結
果となった。

これらの「自らのDX」
の経験を踏まえ、NTT
ATはお客様に寄り添い
「業務そのもの・環境を変
えていく」あらゆる支援も
実施している。